

令和4年度入学試験問題

小論文

(法学部・後期日程)

注意事項

- 1 この問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、全部で2ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合は申し出てください。問題冊子の中に下書き用紙が1枚入っています。また、別に解答用紙が1枚あります。
- 3 受験番号は、解答用紙の指定された2箇所に必ず記入してください。
- 4 横書きで解答してください。
- 5 解答時間は、120分です。
- 6 問題冊子及び下書き用紙は、持ち帰ってください。

以下の文章は、インド出身でイギリスやアメリカなどを拠点に活動してきた学者アマルティア・センの著書『アイデンティティと暴力』からの引用である。センはここで、世界における多くの政治・社会問題が「アイデンティティ」を背景として発生していることを論じている。

センの議論を日本に当てはめてみた場合、「アイデンティティ」を背景とする政治・社会問題としては、どのようなものがあるだろうか。そうした問題の解決策とともに、1,000字以内で述べなさい。

現代の政治・社会問題の多くは、異なる集団にかかわる多様なアイデンティティの主張の衝突をめぐって起きている。アイデンティティの概念はわれわれの思考や行動にさまざまな影響を及ぼすからだ。

過去数年間に起きた暴力的な事件や残虐行為は、恐ろしい混乱と悲慘な衝突の時代の幕開けを告げるものとなった。世界的な政治的対立は、往々にして世界における宗教ないし文化の違いによる当然の結果と見なされている。実際、世界はさまざまな宗教や文化の連合であるという見方が、暗黙のうちとはいえ、ますます増えており、そのため人びとが自己を認識する方法がそれ以外は顧みられない。この考え方の根本には、世界の人びとはなんらかの包括的で単一の区分法によってのみ分類できるという、偏った思い込みがある。世界の人びとを文明ないし宗教によって区分することは、人間のアイデンティティに対する「単眼的」な捉え方をもたらす。つまり、人間を一つの集団(従来のような国または階級ごとではなく、この場合は文明や宗教によって定義される集団)の構成員としてしか考えない見方である。

単眼的なアプローチは、世界中のほぼすべての人を誤解するには、もってこいの方法となるだろう。通常の暮らしでは、われわれは自分がさまざまな集団の一員であると考えている。そのすべてに帰属しているのだ。一人の人間がなんら矛盾することなく、アメリカ国民であり、カリブ海域出身で、アフリカ系の祖先をもち、キリスト教徒で、リベラル主義者の女性であって、かつ菜食主義者、長距離ランナー、歴史家、学校の教師、小説家、フェミニスト、異性愛者、同性愛者の権利の理解者、芝居好き、環境活動家、テニス愛好家、ジャズ・ミュージシャンであり、さらに大宇宙に知的生命が存在し(できれば英語で)緊急に交信する必要があるという考えの信奉者とな

りうるのである。一人の人間が同時に所属するすべての集合体がそれぞれ、この人物に特定のアイデンティティを与えているのだ。どの集合体も、この人物の唯一のアイデンティティ、または唯一の帰属集団と見なすことはできない。人のアイデンティティが複数あるとすると、時々の状況に応じて、異なる関係や帰属のなかから、相対的に重要なものを選ばざるをえない。

したがって、人生を送るうえで根幹となるのは、自分で選択し、論理的に考える責任なのである。かたや、人にはえてして好戦的となる、唯一のアイデンティティがあると考え、それがなにやら多大な(時にはひどく不快な)要求を本人に突きつけるのは仕方がないという意識が培われた場合には、暴力が助長される。唯一のアイデンティティとされるものを押しつけることは、しばしば党派的な対立をあおる「好戦的な技」の重要部分を占めるのである。

[出典 アマルティア・セン(大門毅監訳、東郷えりか訳)『アイデンティティと暴力——運命は幻想である』(勁草書房、2011年)、2-4頁。なお、傍点とふりがなを省略した。]

原典 From IDENTITY AND VIOLENCE : THE ILLUSION OF DESTINY by Amartya Sen. Copyright(c)2006 by Amartya Sen. Used by permission of W.W Norton & Company, Inc